

新大綱策定会議再開にあたって

1. 福島第一原子力発電所事故の対応について

- (1) 今回の大震災による津波により、福島第一原子力発電所は甚大な被害を受け、現在懸命な事故収束作業が行われております。現場では、我々プラントメーカーも、高い放射線量による被ばくや熱中症の問題などに対処しながら、懸命に作業を進めております。

事故の収束に向けては、ロードマップに沿って安定化に向け対応が進められており、我々プラントメーカー各社も組織を挙げて協力してきましたが、今後とも引き続き全力で取り組む所存でおります。

- (2) 中長期的には、安定化から廃炉までには高線量下での多くの作業が見込まれ、被ばく低減と安全確保のために、信頼性の高い遠隔操作装置の開発、放射線環境の緩和のための技術開発などが必要です。また、燃料を含むデブリや、事故によって放射性物質で汚染されたプラント機器・設備の処理についての技術開発も必要です。中長期措置検討専門部会における議論が開始されましたが、メーカーも技術力を結集して技術開発に積極的に取り組んでまいりますので、国の支援のもと、オールジャパン体制で進むことを期待しております。

2. 新大綱策定会議の議論に向けて

- (1) 原子力発電の位置づけについて

エネルギー資源の脆弱な日本の現状を踏まえ、エネルギーセキュリティ、産業競争力、科学技術力の維持・向上、原子力に携わる人材の確保、環境への影響等、原子力発電を重要な電源のひとつとして、中長期的な視点で政策議論が進むことを期待します。

- (2) 燃料サイクル、廃棄物処理・処分について

燃料サイクルについては、今後広く議論を行い、コンセンサスを得ることが必要と考えています。使用済燃料に含まれるウラン、プルトニウムは、資源に乏しい日本にとって有用なエネルギー源となりうるものですので、着実に技術を蓄積して、将来の安定的なエネルギーの供給に貢献すべきであると思います。

加えて、福島事故に伴い発生した放射性廃棄物を含め、廃棄物処理・処分の方
向を定める必要があると考えます。

(3) 我が国の貢献について

福島事故から得られた知見や教訓を踏まえて、シビアアクシデント対策も含め
日本の原子力発電所の安全性を世界最高レベルにすべく、技術を発展させる必要
があると考えます。また、我々の経験を世界に向けて積極的に発信し、世界の原
子力発電所の安全性向上に貢献することは、我が国の責務と考えます。

(4) 既設・新設の原子力発電所について

現在、定期検査中の既設原子力発電所については、直近の電力の安定的な供給
のためにも、安全の確保を前提に、建設中のプラントとあわせて、運転開始に向
けた取り組みの議論が進むよう期待しております。

以上